

JIS X 8341-3:2010 準拠のための試験方法



Web Accessibility Infrastructure Committee

ウェブアクセシビリティ
基盤委員会

<http://waic.jp/>

1. イントロダクション

自己紹介

- **株式会社ミツエーリンクス**
R&D本部 第一部（アクセシビリティ） 部長
中村 精親（なかむら きよちか）
- **ウェブアクセシビリティ基盤委員会**
作業部会3（試験） 主査代行

WG3の主な活動

<http://waic.jp/committee/wg3/>

- JIS X 8341-3:2010 試験実施ガイドライン
- 実装チェックリスト例
- ウェブコンテンツのJIS X 8341-3:2010 対応度表記ガイドライン
- 試験方法に関する国際動向の把握及び国際協調

このセッションのテーマ

- 試験だけが重要なわけではありません
- 試験について理解することは難しくありません
- 正しい理解に基づいた試験をしましょう
- 積極的に対応状況を公開しましょう



アジェンダ

1. イントロダクション
2. なぜ「試験」をするのか？
3. 「試験」とは何か？
4. いつ「試験」をするべきか？
5. 何を「試験」をするのか？

アジェンダ

6. どうやって「試験」をするべきか？
7. 試験結果を公開する
8. 対応度表記と試験結果の表示例から学ぶ試験の進め方
9. まとめ

2. なぜ「試験」をするのか？

「みんなの公共サイト運用モデル」による達成等級の目安

■ JIS X 8341-3 : 2010の等級AAに準拠（試験結果の公開）

- ・ 国及び地方公共団体等の公的機関は、「みんなの公共サイト運用モデル」を参考に、各団体の事情を踏まえて期限と達成等級を検討し、できるだけ速やかに対応してください。

＜期限と達成等級の目安＞

●既に提供しているホームページ等

- 2012年度末まで 「ウェブアクセシビリティ方針」策定・公開
- 2013年度末まで JIS X 8341-3:2010 の等級 A に準拠(試験結果の公開)
- 2014年度末まで JIS X 8341-3:2010 の等級 AA に準拠(試験結果の公開)

●ホームページ等を新規構築する場合

- 構築前に 「ウェブアクセシビリティ方針」策定
- 構築時に JIS X 8341-3:2010 の等級 AA に準拠(試験結果の公開)



「JIS X 8341-3 : 2010に準拠」とは？

- 「ウェブコンテンツをJIS X 8341-3:2010の要件に従って制作・開発し、試験を実施して、目標としたアクセシビリティ達成等級に該当する達成基準を全て満たしていることを示すために使用する」表記

[ウェブコンテンツの JIS X 8341-3:2010 対応度表記ガイドライン](#)

→ 試験を実施して、達成基準をすべて満たしていることを示す

= 「準拠」するためには「試験」が必要

3. 「試験」とは何か？

JIS X 8341-3 : 2010の「試験」とは？

序文によると、「箇条8 試験方法」とは・・・

- 「この規格を用いて適合試験を行うときの試験の方法を規定している」
- 「ここで規定された方法に従って、ウェブコンテンツのアクセシビリティ達成等級のどの等級で、制作・開発したコンテンツがこの規格に適合しているか評価できる」

すなわち、試験＝達成基準を満たしているかどうかを評価するための手段

「試験」 = 評価の手段

- 試験したからアクセシビリティが向上するわけではない
- しかし、公共分野の調達仕様や評価においては、試験ができることで客観性、透明性が確保される ([JIS X 8341-3 : 2010 解説](#))
- 規定された方法に従って試験を実施し、結果を公開することで、外部からでも試験結果を参照し、達成基準を満たしているかどうかの評価ができる

4. いつ「試験」をするべきか？

「試験」と「検証」の違い

JIS X 8341-3 : 2010では・・・

「6.4 検証」

ウェブコンテンツを制作・開発した後、対応する達成等級の達成基準が満たされていることを検証しなければならない。

- 「検証」は制作・開発後に適宜実施する
 - 発注時に「検証」を実施する時期を規定する
- 「試験」は評価が必要な段階で実施する

5. 何を「試験」をするのか？

「8.1 適合試験の要件」を理解する

- 「ウェブページ単位」でも「ウェブページ一式単位」でも試験実施は可能
- 方針策定時に記載した「対象範囲」が基本
- ただし、「試験結果の表示」においては正確な記載が必要となる（客観性、透明性の観点）

ウェブページ単位

- ページの一部を除外してはならない
- 一連の手順である場合はすべてを含まなければならない

ウェブページ単位

- 試験対象のウェブページを選択した上で、そのページに対して「ウェブページ単位」と同様の試験をする

現実的な方針としては・・・

1. すべてのページを選択する
ページ数が少ない場合（概ね100ページ程度まで）
2. ランダム、もしくはランダムではない方法で対象とするページを選択する
ページ数が多い場合

選択方法と選択するページ数の目安

- 主要ページ群 + ランダムサンプリングで40ページ程度
- ランダムではない方法では含めなければならないページが規定されている

第三者によるコンテンツにおける例外

誤った認識がよくあるので注意したいポイント

誤った認識の例：

- 外部の動画配信サービスを利用しており、そのサービスが基準を満たしていないので、例外としたい



× サービスを選択するのはそのページの管理者の責任である

例外事項の記述対象とできる場合とは・・・

- 第三者によるコンテンツが監視されていて、2営業日以内に修正できる
- コンテンツ制作者が監視・修正できるコンテンツではなく、かつ利用者が識別できるように例外適用箇所が明確に説明されている

そうではない場合に対象としない際には例外事項ではなく、対象範囲から除外する必要がある

6. どうやって「試験」を するべきか？



「8.2 試験の手順」を理解する

a) 試験環境の確認

発注時に規定した技術が対象となる

b) 実装チェックリストの作成

c) 試験対象の特定

発注時に規定した内容をもとに、対象ページを選択

d) 試験

e) 達成基準チェックリストの作成

発注者としては、a)、c)を対応し、それ以外は業者が対応することになる

7. 試験結果を公開する

「8.3 試験結果の表示」を理解する

- 必ず表示しなければならない事項と表示することが望ましい事項がある

試験結果表示に含まなければならない内容

() 内はウェブページ式の場合に適用される

- 達成したウェブコンテンツのアクセシビリティ達成等級
- (ウェブページ式を特定するための範囲)
- (試験の対象ウェブページを選択した方法)
- 試験を行ったウェブページのURI (又はウェブページ群のURIリスト及びその数)
- 8.1.3の例外事項がある場合、該当箇所を特定できる説明
- 依存したウェブコンテンツ技術のリスト
- 達成基準チェックリスト
- 試験実施期間



試験結果表示に関する注意事項

- 試験を行ったウェブページのURI（又はウェブページ群のURIリスト及びその数）
 - 客観的に試験対象がわかるように表示する必要がある
- 8.1.3の例外事項がある場合、該当箇所を特定できる説明
 - 8.1.3の例外事項であるのか、対象範囲から意図的に除外しているかを間違わないようにする

8. 対応度表記と試験結果の 表示例から学ぶ試験の進め方

さまざまなサンプル

- 模範的な表示
- 対応したところから結果を公開する
- さまざまな事情で対応できなかったところを除外して公開する
- 一部準拠の状態で開催する
- 試験は実施できなかったが、対応状況について公開する

模範的な表示例

- **達成した等級**
ウェブコンテンツのアクセシビリティ達成等級AA
- **ウェブページ一式の範囲**
http://www.example.go.jp/ 以下
すべてのウェブページ 総ページ数 5240
- **ウェブページの選択方法**
ランダムではない方法により15ページ
ランダムサンプリングにより40ページを選択
- **試験を行ったページのURIリスト**
別紙

模範的な表示例（続き）

- **例外事項**
なし
- **依存したウェブコンテンツ技術**
XHTML 1.0
- **達成基準チェックリスト**
別紙
- **試験実施期間**
2013年7月16日から7月19日

対応したところから公開した例

- 達成した等級

ウェブコンテンツのアクセシビリティ達成等級A

- ウェブページ一式の範囲

<http://www.example.go.jp/sub1/> 以下
すべてのウェブページ 総ページ数 15

- ウェブページの選択方法

すべてのウェブページを選択

対応したところから公開した例（続き）

■ 試験を行ったページのURIリスト

<http://www.example.go.jp/sub1/index.html>

<http://www.example.go.jp/sub1/aaa.html>

<http://www.example.go.jp/sub1/bbb.html>

<http://www.example.go.jp/sub1/ccc.html>

<http://www.example.go.jp/sub1/ddd.html>

<http://www.example.go.jp/sub1/eee.html>

<http://www.example.go.jp/sub1/fff.html>

<http://www.example.go.jp/sub1/ggg.html>

...

（以下略）

対応したところから公開した例（続き）

- **例外事項**
なし
- **依存したウェブコンテンツ技術**
XHTML 1.0
- **達成基準チェックリスト**
別紙
- **試験実施期間**
2013年7月16日から7月19日

対応できなかったところを除外して公開した例

■ 達成した等級

ウェブコンテンツのアクセシビリティ達成等級A

■ ウェブページ一式の範囲

<http://www.example.go.jp/> 以下

すべてのウェブページ、ただし拡張子が.pdfであるファイルを除く 総ページ数 3000

■ ウェブページの選択方法

ランダムではない方法により15ページ

ランダムサンプリングにより40ページを選択

■ 試験を行ったページのURIリスト

別紙

対応できなかったところを除外して公開した例（続き）

- **例外事項**
なし
- **依存したウェブコンテンツ技術**
XHTML 1.0
- **達成基準チェックリスト**
別紙
- **試験実施期間**
2013年7月16日から7月19日

一部準拠の状態で開催した例

- 達成を目指している等級
ウェブコンテンツのアクセシビリティ達成等級A
- ウェブページ一式の範囲
http://www.example.go.jp/ 以下
すべてのウェブページ 総ページ数 4000
- ウェブページの選択方法
ランダムではない方法により15ページ
ランダムサンプリングにより40ページを選択
- 試験を行ったページのURIリスト
別紙

一部準拠の状態で開催した例（続き）

- **例外事項**
なし
- **依存したウェブコンテンツ技術**
XHTML 1.0
- **達成基準チェックリスト**
別紙
- **試験実施期間**
2013年7月16日から7月19日

一部準拠の状態で開催した例（続き）

■ 達成基準の一部を満たせなかった理由

今回の実施期間においては、ウェブサイト全体の改修を実施することができませんでした。

そのため、共通で利用している部分が未改修となり、基準を満たせませんでした。

■ 準拠に向けたスケジュール

ウェブアクセシビリティ方針に記載の通り、次期リニューアルの際に準拠を目指します。

また、それまでの期間については可能な範囲で対応を進めます。

試験は実施できなかったが、対応状況について公開した例

当ウェブサイトでは、「高齢者・障害者等配慮設計指針－情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス－第3部：ウェブコンテンツ JIS X 8341-3」に配慮した制作をしており、準拠を目指しています。

■ 達成を目指している等級

ウェブコンテンツのアクセシビリティ達成等級AA

■ 対象としているウェブページ一式の範囲

<http://www.example.go.jp/> 以下

すべてのウェブページ 総ページ数 10000



試験は実施できなかったが、対応状況について公開した例（続き）

■ 例外事項

なし

■ 依存したウェブコンテンツ技術

XHTML 1.0

■ 現在対応している内容

新規ページ作成時のチェックリストでの確認
利用者によるテストの実施

■ 準拠に向けた方針、予定

ウェブアクセシビリティ方針に記載のとおり

9. まとめ

まとめ

- 「試験」のための対応ではなく、アクセシビリティを向上させた結果を明確にするのが「試験」
- 「試験」そのものの実施自体はJIS X 8341-3の理解が必要だが、その条件を整えるのは発注側、担当者が積極的に行うべき
- 「やってはいけない」ことがあるのではなく、「やったことを正しく公開する」ことが重要

まとめ

- 完全な対応ができないからまったくやらないのではなく、例えば「試験」ができなくても積極的に対応した内容を公開してください
 - 少しでも先に進めようという機関が評価されるようにしていきたいと考えています

JIS X 8341-3:2010 準拠のための試験方法



Web Accessibility Infrastructure Committee

ウェブアクセシビリティ
基盤委員会

<http://waic.jp/>